

第3期宮城県図書館振興基本計画

に係る令和2年度評価

令和3年3月

宮城県図書館

目 次

1	第3期宮城県図書館振興基本計画の点検及び評価について	1
(1)	趣旨	
(2)	第3期宮城県図書館振興基本計画における進行管理	1
(3)	令和2年度における点検について	1
(4)	目標指標の達成率の算出について	1
(5)	自己評価の判定区分について	2
(6)	宮城県図書館協議会による外部評価	2
2	第3期宮城県図書館振興基本計画の構成について	3
3	点検・評価結果について	4
	施策の方向性1	5
	施策の方向性2	7
	施策の方向性3	9
	施策の方向性4	11
	施策の方向性5	13
	施策の方向性6	15
	施策の方向性7	17
	施策の方向性8	19
	施策の方向性9	21
	施策の方向性10	23
	施策の方向性11	25
4	令和2年度の点検及び評価の総括	27

1 第3期宮城県図書館振興基本計画の点検及び評価について

(1) 趣旨

図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3の規定により、図書館は、図書館の運営の状況について評価を行うとともにその結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならないこととされています。また、図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月19日文科科学省告示第172号）の規定に基づき、運営の状況に関する点検及び評価を行うよう努めなければならないこととされています。

そのため、上記の法律等に基づき、平成30年度以降における宮城県図書館（以下「当館」という。）が実施する事業に係る点検及び評価を実施するものとします。

(2) 第3期宮城県図書館振興基本計画における進行管理

第3期宮城県図書館振興基本計画を着実に推進するために施策に掲げた取組の実施状況を把握し、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）のPDCAサイクルによる進行管理を行います。また、運営の状況について当館による自己評価及び宮城県図書館協議会による外部評価を行い、その結果に基づいて運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めます。

(3) 令和2年度における点検について

点検については、事業毎の点検を行い、施策の方向性毎に進捗状況等を明らかにするとともに課題の分析や今後の対応の方向性を示すこととしました。

なお、今回の報告については、3月31日現在の実績等を踏まえて作成しています。

(4) 目標指標の達成率の算出について

● それぞれ施策毎に目標指標等を次のストック型とフロー型に分類し、対応する計算式により達成率を算出した。

- ・ ストック型：事業活動に伴う成果を累積して把握する指標
$$\frac{\text{実績値} - \text{初期値}}{\text{目標値} - \text{初期値}}$$
- ・ フロー型：事業活動に伴う成果を単年度ごとに把握する指標
$$\frac{\text{実績値}}{\text{目標値}}$$

※ 目標値を下回ることを目標とする指標の場合などはストック型を準用して算出

(5) 自己評価の判定区分について

施策の方向性を構成する事業の必要性，有効性，効率性を考慮し，目標指標等の達成状況，社会経済情勢，事業の実績及び成果等から見て，次のとおり判断しました。

- ・ 順 調：成果が十分にあり，進捗状況が順調であると判断されるもの。
- ・ 概 ね 順 調：成果がある程度あり，進捗状況が概ね順調であると判断されるもの。
- ・ やや遅れている：成果があまりなく，進捗状況がやや遅れていると判断されるもの。
- ・ 遅れている：成果がなく，進捗状況が遅れていると判断されるもの。

(6) 宮城県図書館協議会による外部評価

今回の宮城県図書館協議会において，当館が作成した最終自己評価を報告した上で評価を決定します。

2 第3期宮城県図書館振興基本計画の構成について

基本方針

県内全域の図書館間ネットワークのより一層の連携・強化に努め、図書館サービスの向上を図ります。また、県民の知る権利を保障し、県民誰もが生涯にわたる学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる環境づくりを目指します。

目標

1

宮城県図書館を中核とした市町村図書館等とのネットワーク体制の充実を図るとともに、全県的な図書館サービスの質的向上に努めます。

2

県民のニーズや社会の要請に応えるための充実した図書館サービスを提供します。

3

図書館がその機能を十分に発揮するための資料・施設・職員の充実を図ります。

4

ふるさと宮城に関する資料の収集・保存に努めるとともに、東日本大震災の記録を永く後世に伝えるための取組を行います。

施策の方向性

1

市町村図書館等との連携強化及び支援の充実を図ります。

2

県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り、効果的な研修を実施します。

3

学校図書館との連携を推進するとともに、支援の充実を図ります。

4

子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。

5

多様な資料・情報の提供に努めるとともに、県民の課題解決を支援する図書館を目指します。

6

ボランティアの活躍の場を創り、その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに、ボランティア活動を支援します。

7

公平かつ長期的な視点に立ち、県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに、適正に整理、保存し、有効活用を図ります。

8

安全安心な施設の維持に努め、県民が利用しやすい環境整備を推進します。

9

組織運営の強化に取り組むとともに、創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。

10

宮城の郷土資料を後世に伝えるため、収集・保存や修復を行うとともに、利活用の促進を図ります。

11

東日本大震災の記録を収集し、永く後世に引き継ぐための取組を行います。

3 点検・評価結果について

施策の方向性		自己評価
1	市町村図書館等との連携強化及び支援充実を図ります。	概ね順調
2	県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り，効果的な研修を実施します。	概ね順調
3	学校図書館との連携を推進するとともに，支援の充実を図ります。	概ね順調
4	子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。	概ね順調
5	多様な資料・情報の提供に努めるとともに，県民の課題解決を支援する図書館を目指します。	概ね順調
6	ボランティアの活躍の場を創り，その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに，ボランティア活動を支援します。	概ね順調
7	公平かつ長期的な視点に立ち，県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに，適正に整理，保存し，有効活用を図ります。	概ね順調
8	安全安心な施設の維持に努め，県民が利用しやすい環境整備を推進します。	概ね順調
9	組織運営の強化に取り組むとともに，創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。	概ね順調
#	宮城の郷土資料を後世に伝えるため，収集・保存や修復を行うとともに，利活用の促進を図ります。	順調
#	東日本大震災の記録を収集し，永く後世に引き継ぐための取組を行います。	順調

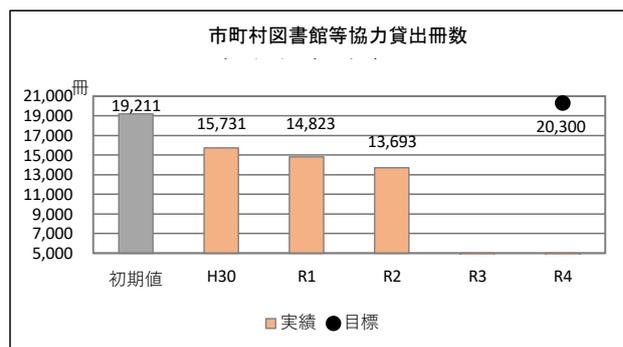
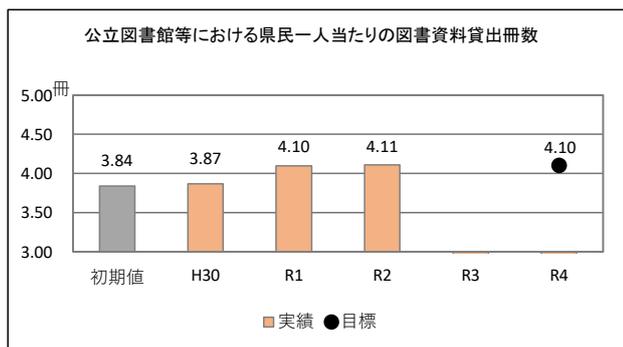
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	1 市町村図書館等との連携強化及び支援充実を図ります。
--------	-----------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)を利活用し、当館から市町村図書館等への協力貸出、当館・市町村図書館等間の相互貸借及び情報交換等を行います。 市町村図書館等を訪問し、各館の現状や課題を把握し、情報の提供や収集及び運営相談、助言等を行います。 市町村図書館等の住民サービスと利用促進に繋げるため、当館から直接館外貸出を受けた資料を、市町村図書館等を通じて返却できるようにし、当館から遠隔地等に在住する県民の利便性の向上を図ります。 被災した図書館等の地域資料を再整備するため、「みやぎデポジットライブラリー」について継続して取り組み、必要な地域資料の収集と再配布を行います。
------	--

目標指標	※「公立図書館等における県民一人あたりの図書資料貸出冊数」の実績値については、「宮城県内公共図書館・公民館図書室等現状調査」の数値を用いているため、調査時期の関係上、前年度（R1年度）実績値を計上している。			
	初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和2年度）	達成率
公立図書館等における県民一人あたりの図書資料貸出冊数	3.84冊	4.10冊	4.11冊	100.2% 【フロー型】
市町村図書館等協力貸出冊数	19,211冊	20,300冊	13,693冊	67.5% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館ネットワークシステム運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 公共図書館21市町31館、公民館図書室等読書施設14市町村15室(全市町村)が加入し、本の貸出依頼や諸連絡、情報交換等に活用した。 図書館情報ネットワークシステムについて、保守業者との定例打合せをこれまで5回実施し、図書館システムの安定した運営を維持した。
協力業務運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 県内市町村図書館等への協力貸出を基準日現在で13,693冊、県外図書館等への相互貸借を586冊行い、当館資料の活用を図った。
公立図書館等連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は新型コロナウイルス感染症の関係もあり、3回開催予定のところ書面開催にて2回開催し、公立図書館等間における連携協力や情報交換を図った。今後は、WEB開催などの道も探っていきたい。
巡回相談	<ul style="list-style-type: none"> 前期は新型コロナウイルス感染症の関係から書面開催とし、後期は10月に市町村図書館等35館を巡回し、情報提供や運営相談を実施した。
市町村図書館等返却サービス	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔地等に在住する県民の利便性の向上を図るため、宮城県図書館の窓口で借りた資料を市町村図書館等で返却することができる制度を実施しており、基準日現在で1,340件5,119冊・点の実績があった。

事業名	
被災した市町村図書館等の復興支援	<ul style="list-style-type: none"> 第22回図書館総合展(オンライン開催, 11/1 ~11/30)において, 被災地図書館の復興状況を紹介した。

自己評価	概ね順調
理由	
<ul style="list-style-type: none"> 協力貸出冊数について, 新型コロナウイルス感染症の影響による全県的な休館期間には流通が減少した時期もあったが, 年度後半は例年どおりの貸出冊数に戻っている。 連絡会議, 巡回相談については新型コロナウイルス感染症の影響を受け, 例年どおりの事業遂行が難しい状況であったが, 書面開催で実施するなど工夫を凝らして成果が残るように努めた。 以上のことから, 計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し, 本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 <p>(参考) 平成30年度以降の後期(10月～3月)市町村図書館等協力貸出冊数 H30 7,810冊 , H31(R1) 7,025冊 , R2 7,782冊</p>	

課題	
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症による影響がいつまでなのか, 今後も先が見えない状況で事業執行しなければならぬこと, また, そのような状況下でも成果が出せるようにしていくことが課題である。 	

対応方針	
<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナ禍であらゆる対策を講じて取り組んできたことから, 今後これらを十分に検証し, 予想される感染拡大にも柔軟に対応しつつ, 可能な限り事業継続できるような体制を整えていく。 	

協議会委員意見	
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり, 「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 	

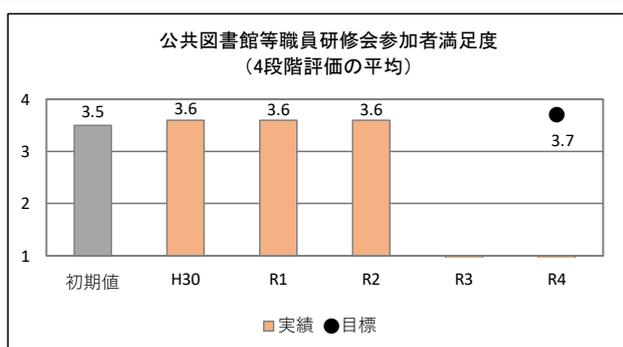
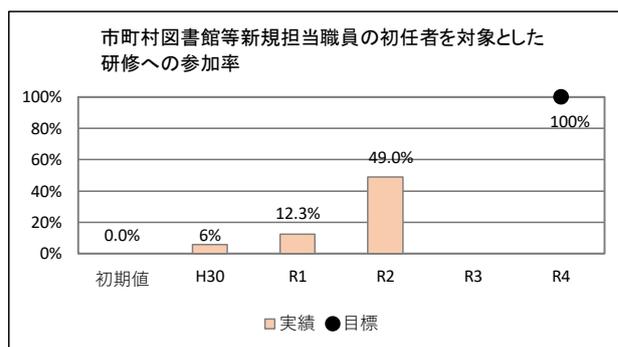
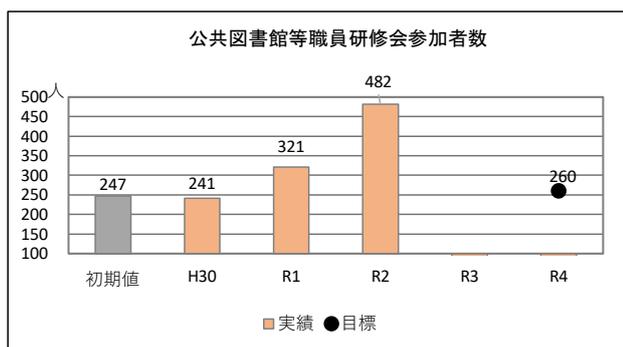
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	2 県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り、効果的な研修を実施します。
--------	--------------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員の業務担当者及び公立小・中学校、県立学校図書館担当者を対象に、図書館担当職員としての基礎的な知識の習得のための機会を設け、業務推進の一助となるよう研修会を実施します。 市町村図書館等が実施する研修会へ当館職員を派遣し、市町村における図書館業務の専門的知識習得と技術力向上を支援します。 図書館界の新たな動向や新しいサービスについて、当館職員が学ぶ機会を確保し、市町村図書館等への支援に生かします。
------	---

目標指標					
	初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和2年度）	達成率	
公共図書館等職員研修会参加者数	247人	260人	482人	185.4%	【フロー型】
市町村図書館等新規担当職員の初任者を対象とした研修への参加率	0%	100%	49.0%	49.00%	【ストック型】
公共図書館等職員研修会参加者満足度（4段階評価の平均）	3.5	3.7	3.6	97.3%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
公共図書館等職員研修	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を遠隔研修の形態で3回実施し、知識と技能の習得を図った。受講者数については、延べ482人の参加があった。 参加者アンケートでは基準日現在で平均3.6の高い評価を得た。
出前講座	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等業務の専門的知識習得と技術力向上を支援するため、基準日現在で4市町の研修会等へ当館職員を5回派遣した。

自己評価	概ね順調
------	------

理由

- ・ 公共図書館等職員研修については、新型コロナウイルス感染症の影響で集合形式での研修会開催が難しい状況にあったが、動画配信による遠隔研修の形式によって実施した。動画配信とすることで、より多くの参加者が都合の良い時に視聴できるというメリットを最大限生かして、大幅な参加者数の増を図ることができた。
- ・ 初任者層を対象とした研修への参加率は遠隔研修のメリットを十分生かすことができ、大幅な参加増となった。
- ・ 出前講座については、前年度実績には届かなかったが、希望館のニーズに沿った講座を実施することができた。

・ 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は現時点において「概ね順調」と判断する。

課題

・ 公共図書館等職員研修について、動画配信による研修のメリットは大きいですが、一方で研修形態として集合して実技を行うものやグループでの討論などの方法が適切なものもあることから、新型コロナウイルス感染症のリスクに配慮しながらも、それぞれの研修の特性を見極めて、ニーズに応じた研修を模索する必要がある。

対応方針

・ 新型コロナウイルス感染症の動向も見極めながら、遠隔研修と対面研修のそれぞれのメリットを活かした効果的で魅力ある研修の提供に努める。

協議会委員意見

・ 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

・ 公共図書館等職員研修について、今年度の動画配信形式が概ね好意的な反応が多数だったことは理解した。ただ、インターネットに繋がる回線の速度が3Mbpsとは、脆弱だと言わざるを得ない。それは、グループ討議ができるような環境になるように、きちんと要求をしていった方が良い。

・ 今年度の動画配信形式が、初任者の人に少しでも多く受けってもらうようなスタイルをお示しいただいた。今話題になっている、ワークショップ形式とかグループ討議という形については、今後を期待したい。

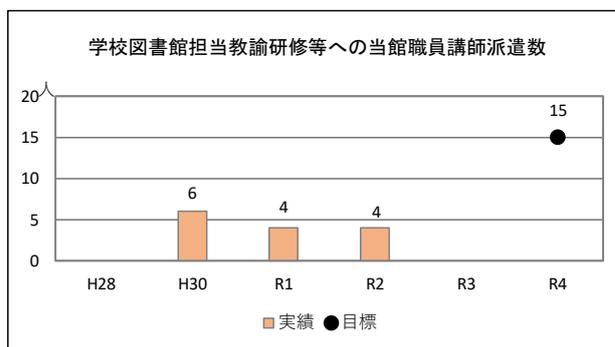
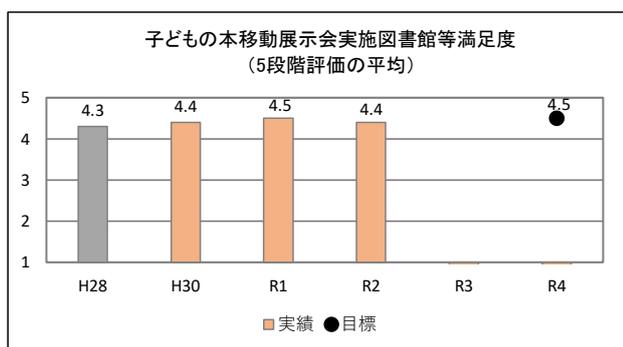
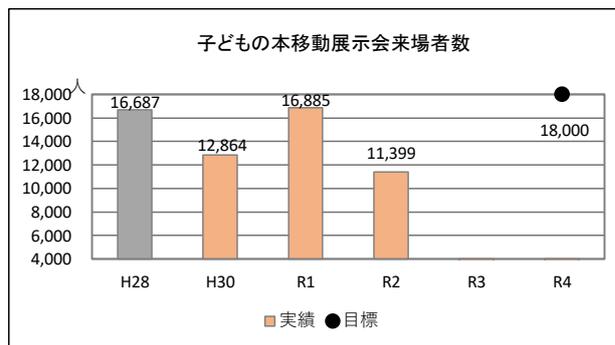
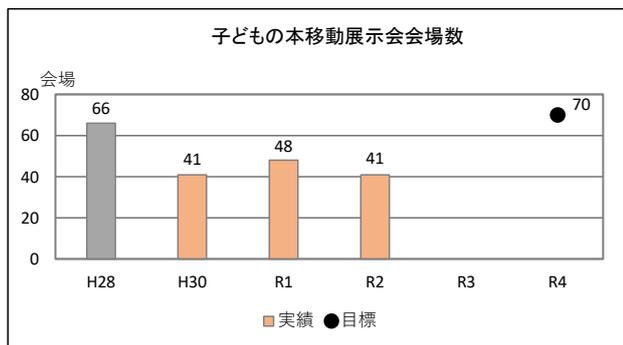
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	3 学校図書館との連携を推進するとともに、支援の充実を図ります。
--------	----------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの本展示会で展示した児童書を貸し出す移動展示会を実施し、児童書のさらなる活用を図ります。 ・ 幅広い内容の本をテーマ別・対象学年別に組んだセット資料を、市町村図書館等を通して小・中学校に貸し出します。 ・ 歴史や文化に親しむ大きな契機とするため、当館が所蔵している貴重資料の複製を県内の高等学校・市町村図書館等に貸し出します。 ・ 高等学校及び支援学校等図書館との連携・協力を推進するため、ニーズを調査し、それに応じた支援事業の実施に向けて検討します。 ・ 学校図書館担当教諭研修等へ当館職員を講師として派遣することにより、学校司書を対象とした研修との相乗効果を図りながら、学校図書館運営を側面から支援します。
------	--

目標指標	初期値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和2年度)	達成率
子どもの本移動展示会会場数	66会場	70会場	41会場	58.6% 【フロー型】
子どもの本移動展示会来場者数	16,687人	18,000人	11,399人	63.3% 【フロー型】
子どもの本移動展示会実施図書館等満足度 (5段階評価の平均)	4.3	4.5	4.4	97.8% 【フロー型】
学校図書館担当教諭研修等への当館職員講師派遣数	—	15人	4人	26.7% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
子どもの本移動展示会	・ 子どもの本展示会での展示を予定していた2019年の新刊児童書200冊を1セットとし、県内市町村図書館や公民館図書室14館へ19セット、小・中学校、特別支援学校27校へ32セットを貸し出した。

事業名	
学サボセットの貸出	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等と小・中学校との協力・連携への側面的支援のため、テーマ別、学年別の児童書セットを9市町9館へ延べ34セットを貸し出した。
複製資料貸出事業	<ul style="list-style-type: none"> 基準日現在、県内の高等学校や市町村図書館公民館延べ11箇所、坤興万国全図などの複製資料29点を貸し出し、著名な資料や郷土の文化の発信に努めた。
学校図書館運営サポート事業	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館担当教諭研修会等へ当館職員延べ2名を講師として派遣した。 県立学校への出前講座として当館職員2名を派遣した。 新たな学校図書館支援へ向けて具体的な支援策を策定した。
公共図書館等職員研修（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を遠隔研修の形態で3回実施し、知識と技能の習得を図った。受講者数については、延べ482人の参加があった。 参加者アンケートでは基準日現在で平均3.6の高い評価を得た。

自己評価	概ね順調
------	------

理由
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの本移動展示会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、申込み後に実施を見合わせた施設もあり、実施会場数及び来場者数は、前年度同時期より減少した。実施施設の満足度は、目標値をやや下回った。 学校図書館への更なる支援については、検討を重ね、①高等学校図書館研究会との情報交換を行うこと②高等学校を「出前講座」の対象とすること③学校図書館を「相互貸借」の対象とすること等の具体的な支援を打ち出すことができた。 再掲事業については、7ページ参照。 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。

課題
<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館支援について、本年度立案した支援策を実行に移し推進していく必要がある。また、今回の支援策で完結という訳ではなく、情報交換等を通じて学校のニーズを吸い上げ、さらなる支援策を模索していく。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 今回の支援策が真に学校にとって効果が上がるものとなるよう、支援策を展開しながら関係機関との連携と意思疎通を図っていく。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 学校図書館職員の能力向上のために、県図書館の職員を学校図書館、高等学校の図書館へ派遣し出前講座を実施していることは理解した。

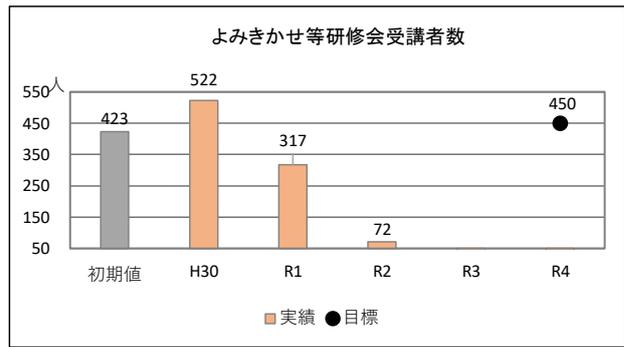
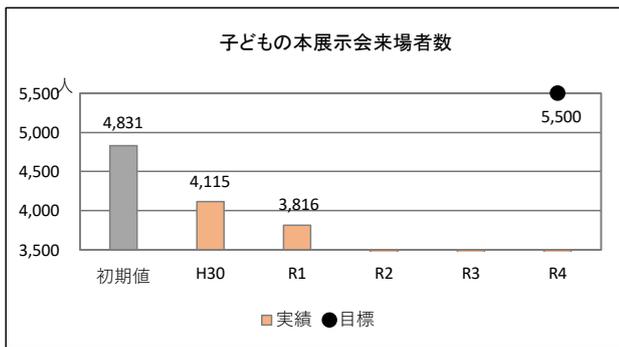
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	4 子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。
--------	---------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書環境や読書活動促進のため、児童書や児童文学賞作品、「小中学生のための読書案内『本のいずみ』」に紹介した資料を展示する「子どもの本展示会」を開催します。 子どもの読書活動を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目的として、おはなし会を行う基本的知識と技能を習得するための研修を実施します。 図書館を身近なものに感じてもらうための夏休み親子ツアーを実施します。 児童資料研究・相談室については、時代のすう勢を再確認しながら、利用のあり方等を検討します。
------	--

目標指標					
	初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和2年度）	達成率	
子どもの本展示会来場者数	延べ4,831人	延べ5,500人	延べ0人	0.0%	【フロー型】
よみきかせ等研修会受講者数	延べ423人	延べ450人	延べ72人	16.0%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
子どもの本展示会	<ul style="list-style-type: none"> 次世代を担う子どもたちの読書環境整備や読書活動促進のため、前年出版の児童書約2,000冊とテーマ展示として、2019年児童文学賞受賞作品や小中学生のための読書案内「本のいずみ」で紹介している本の展示を4月23日（木）から5月10日（日）の期間で計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、図書館が臨時休館となったため実施できなかった。
よみきかせ等研修会	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書環境を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目指し、おはなし会を行う際に必要なよみきかせ等の基礎知識と技能の修得を図るため、年間9回の当初計画を5回とし10月から実施し、延べ72名が受講した。実施に際しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取った上で開催した。
夏休みお仕事体験ツアー	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。
学サボセットの貸出（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等と小・中学校との協力・連携への側面的支援のため、テーマ別、学年別の児童書セットを9市町9館へ延べ34セットを貸し出した。

事業名	実績
複製資料貸出事業（再掲）	・ 基準日現在、県内の高等学校や市町村図書館公民館延べ11箇所、坤輿万国全図などの複製資料29点を貸し出し、著名な資料や郷土の文化の発信に努めた。
子どもの本移動展示会（再掲）	・ 子どもの本展示会での展示を予定していた2019年の新刊児童書200冊を1セットとし、県内市町村図書館や公民館図書室14館へ19セット、小・中学校、特別支援学校27校へ32セットを貸し出した。

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よみきかせ等研修については、今年度前半は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。10月から年間9回開催のところ5回に変更して実施した。受講者は72名となったが、受講者からは高い満足度が得られた。 ・ 「夏休みお仕事体験ツアー」は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったが、新たな開催形態について検討を行った。 ・ 「子どもの本展示会」については、例年、子ども読書週間に合わせ実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、図書館が休館となったことにより実施できなかった。しかし、「子どもの本移動展示会」については事業を実施し、市町村図書館等や学校へ資料の貸出を行った。 ・ 再掲事業については、9～10ページ参照。 ・ 以上のことから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業はあったものの、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「夏休みお仕事体験ツアー」のようなイベントについては、今後は必ずしも集客することに拘るのではなく、新たな形態での開催を模索する必要がある。 ・ 児童資料研究・相談室の利用が停滞していることから、今後利用促進を図る必要がある。さらに各教育機関への広報周知に努める必要がある。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「夏休みお仕事体験ツアー」については、例えばバーチャル見学のような形態で同様の成果が得られないかどうか、新たな試みに取り組む。 ・ 児童資料研究・相談室の利用のあり方については、根本的な措置を要する時期に来ていることから、引き続き課題・理念の整理を行うとともに、利用促進のための広報活動にも力を入れる。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 ・ 世の中全体読書離れが進んでいるな、という風な印象を受けた。読書傾向を探ることやホームページ以外の広報活動など考えていく必要がある。

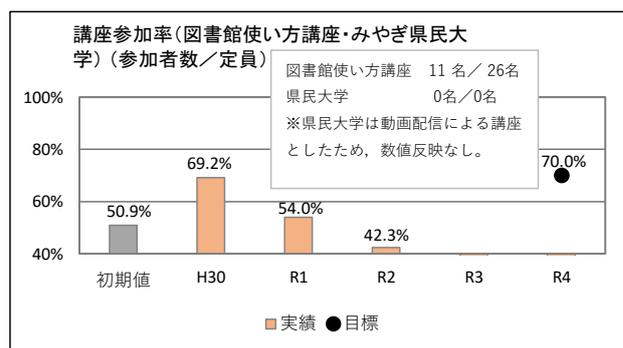
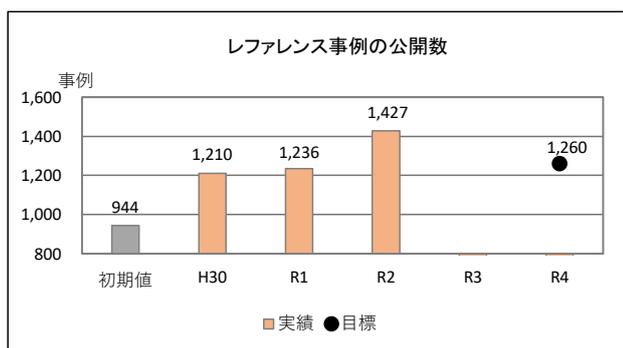
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	5 多様な資料・情報の提供に努めるとともに、県民の課題解決を支援する図書館を目指します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス事例の公開や、レファレンス協同データベースを活用し、付加価値の高い情報発信を行います。 パスファインダーを作成して配布するとともに、ホームページに公開します。 資料検索端末やデータベース等の講習を実施し、利用者が自身で課題解決できるようサポートします。 県民の生涯学習支援の一環として、より多くの学習機会を提供するために、当館所蔵資料を活用した「みやぎ県民大学」等を実施します。 視覚障がい者や目で字を読むことが困難な方々に、視覚障害者情報総合ネットワーク「サビエ」を活用して、点字やデジタデータ等の情報を提供し、サービスの充実を図ります。 宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)を更新し、よりわかりやすく、利用しやすいホームページの作成を目指し、利便性の向上を図ります。 県民の課題解決支援のための各種講座やイベント等について、ホームページやSNS、新聞等を活用し、常に最新の情報を提供します。
------	---

目標指標					
	初期値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和2年度)	達成率	
レファレンス事例の公開累積数 (初期値との差)	944事例 (一)	1,260事例 (+316事例)	1,427事例 (+483事例)	152.8%	【ストック型】
講座参加率(図書館使い方講座・みやぎ県民大学) (参加者数/定員)	50.9%	70.0%	42.3%	60.4%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
レファレンス事例の公開	<ul style="list-style-type: none"> 22,428件の調査相談を実施した。レファレンス協同データベースに、公開可能なものをレファレンス事例として191件登録した。公開事例は累計で1,427件となった。
パスファインダーの作成・公開	<ul style="list-style-type: none"> 調べ方案内(パスファインダー)について、新たに6件の作成を行い、配布するとともにホームページにも公開した。
図書館使い方講座	<ul style="list-style-type: none"> データベース講座として、①使ってみよう！ジャパンナレッジ(辞書・事典の検索データベース) ②使ってみよう！新聞記事データベース ③使ってみよう！国立国会図書館デジタルコレクション ④使ってみよう！叡智の柱WEB ⑤D1-law.com(法情報総合データベース)の5講座各2回計10回中9回(1回は新型コロナウイルス対策のため中止)、⑥OPAC講座を5回中4回(1回は新型コロナウイルス対策のため中止)実施した。各2名の定員に対して合計11名の参加があった。
図書館見学ツアー	<ul style="list-style-type: none"> 8月以降毎月第3土曜日に開催し、基準日現在で延べ65名の参加があった。 毎回参加者にアンケートを依頼しているが、「普段見ることのできない場所を見ることができて良かった。」などの好意的な反応が多かった。

事業名	実績
みやぎ県民大学	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で開催保留となっていたが、開催方法を工夫し動画配信(YouTube)による講座とし県民大学としては1月30日から3月5日まで公開し、閲覧数は期間中349件となった。期間終了後も公開しているが、閲覧数は順調に伸びている。
ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、開催日程を再設定して令和3年1月30日に実施した。パトラー(発表者)4名 オーディエンス19名の参加があり、新しい本との出会いを通じて県民の図書館への関心を高め、利用促進を図った。
サピエ図書館サービス	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい者や目で字を読むことが困難な方々に、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」を活用して点字やDAISY資料等の情報を提供した。今年度は現時点で3件の利用があった。 昨年度に引き続きDAISY資料の製作を進めている。
「ことばのうみ」発行	<ul style="list-style-type: none"> 7月(66号)は、巻頭エッセイは作家郷内心瞳氏、特集は「貴重映像の宝庫～16ミリフィルムの魅力と活用～」とした。 10月(67号)は、巻頭エッセイはイラストレーター佐藤ジュンコ氏、特集は「市町村図書館等返却制度」とした。 1月(68号)は巻頭エッセイはアーティスト瀬尾夏美氏、特集は「Withコロナ時代の図書館」とした。 年間8,000部発行し、県内外の利用者への当館の活動の広報を行った。
情報エントランスみやぎ	<ul style="list-style-type: none"> 1階エントランスを活用し、宮城県や他の外部機関と連携してパネル展示を行い、県民にさまざまな情報を提供している。基準日現在で10機関18回の利用実績があった。

自己評価	概ね順調
理由	
<ul style="list-style-type: none"> レファレンス事例の公開数は順調に伸び、目標値を上回っている。 図書館使い方講座は、新型コロナウイルスの影響により、参加数は定員に達しなかった。 県民参加型事業である「みやぎ県民大学」については、いったん開催保留となったが、講座をYouTube動画による配信を行うことで現在公開中である。閲覧数は順調に伸びており、従来の集合形式での参加者数に比べて大幅な伸びをみせている。 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 講座等、参加者を集める形態のものは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、集客しながら大幅な増を図ることが難しい状況にある。感染拡大を防ぎつつ、参加者数を確保するための取組が必要。 障害者サービスについて、「読書バリアフリー法」の施行により、更なる取り組みが求められていることから、それに対応できるだけの受入体制を整える必要がある。 障害者サービスは相応の知識・技術が求められる分野でもあることから、ニーズに応じた専門知識(点字・音訳など)を持った職員が対応できるよう職員の養成又は人的配置が求められる。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 講座等の実施については、これまでの当館でのコロナ対応も踏まえ、適切な運営・開催形態について模索する。 障害者サービスについては、改めて館内体制を再確認し、現状で対応可能な部分からサービス提供を広げたい。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

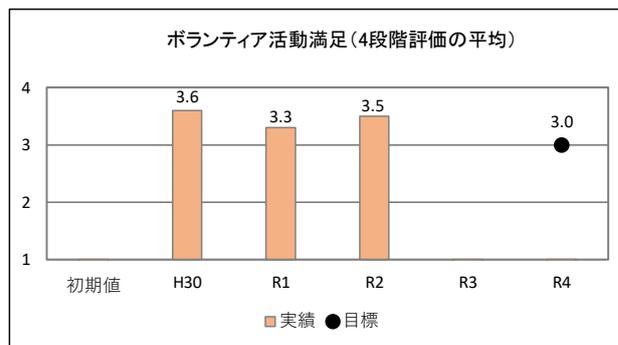
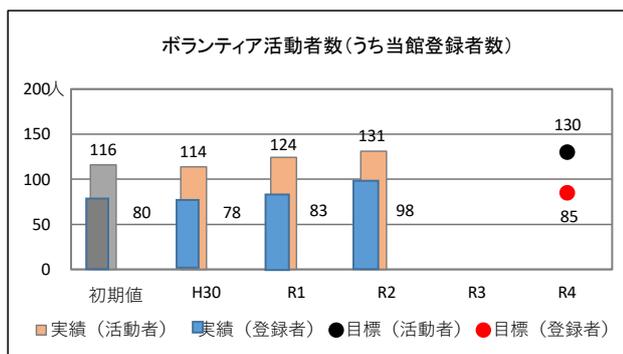
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	6 ボランティアの活躍の場を創り、その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに、ボランティア活動を支援します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア登録により、書架整理・展示室等案内・音訳・蔵書点検等の活動分野において、職員やボランティア同士のコミュニケーションを図りながら活動を支援します。 ボランティア活動に必要な基礎的知識や技能を習得するための研修体制を充実させます。 当館ボランティア登録者以外についても、充実したボランティア活動ができるよう、生涯学習の一環として活動の場を提供します。
------	---

目標指標		初期値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和2年度)	達成率
ボランティア活動者数 (うち当館登録者数)		116人 [80人]	130人 [85人]	131人 [98人]	100.8% [115.3%] 【フロー型】
ボランティア活動満足 (4段階評価の平均)		—	3.0	3.5	116.7% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
ボランティア活動支援	<ul style="list-style-type: none"> 書架整理・展示室等案内・音訳・協力貸出搬送・蔵書点検等の各分野において、週1回2時間程度のボランティア活動の場を提供するとともに、活動のサポートを行った。 よみきかせ活動については、今年度は6団体33人の登録があり、子ども図書室にて活動した。
ボランティア講座	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修会として、「宮城県図書館の概要」「緊急時の対応」などを2回実施したほか、活動分野毎にサービス内容や技能習得のための養成講座や専門講座を33回実施し、延べ246人の参加があった。
よみきかせ等研修会 (再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書環境を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目指し、おはなし会を行う際に必要なよみきかせ等の基礎知識と技能の修得を図るため、年間9回の当初計画を5回とし10月から実施し、延べ72名が受講した。実施に際しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取った上で開催した。

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により今年度の活動開始が大幅にずれ込んだ。しかし、この状況下でもボランティアの意欲は高く、感染拡大防止に配慮しながら順調に活動した。 ボランティア活動の新規分野開拓のための検討を今年度初めて実施した。 再掲事業については、11ページ参照。 <p>・以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。</p>	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 活動の新規開拓分野として「環境美化」が挙げられているが、図書館のボランティア活動として定着させるには解決すべき課題がある。「図書館での活動」という本来の趣旨に合致させつつ新たな分野を開拓する必要がある。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> すぐに新規分野を開始、定着という状況にはないが、宮城県図書館でこういった活動ができるのか引き続き調査検討を継続する。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 このコロナがひどい時に、ボランティアの数が減らないというのは、すごいと思う。皆さんやりがいがあってやっている感じがうかがえた。

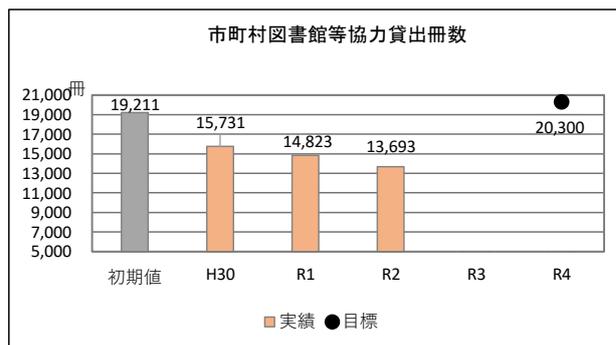
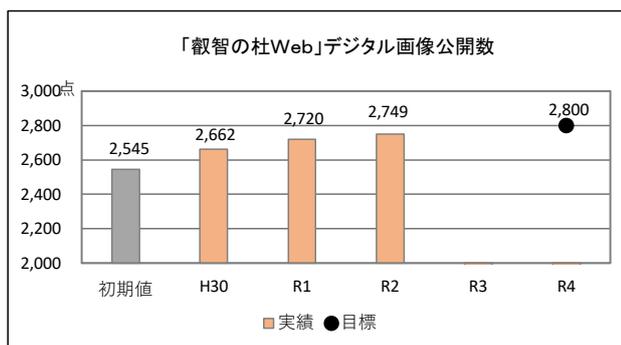
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	7 公平かつ長期的な視点に立ち、県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに、適正に整理、保存し、有効活用を図ります。
--------	---

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料について県民のニーズを把握し、公平性、有効性を考慮し、特定の分野に偏ることなく、可能な限り幅広く収集するとともに、資料の更新・整備を行います。 ・ 関係機関等と連携しながら、当館所蔵資料を活用した展示等を行い、広く県民に公開します。 ・ 資料が利用者に活用される情報資源となるよう、文献リスト等の作成により付加価値の高い情報発信に取り組みます。 ・ 地域の課題等に対応した特集コーナーや展示により、資料の有効活用に取り組みます。 ・ 16ミリ映画フィルム等の点検、整備、適切な保存に努め、その利活用を図ります。
------	---

目標指標				
	初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和2年度）	達成率
「叡智の杜Web」デジタル画像公開数 (初期値との差)	2,545点 (—)	2,800点 (+255点)	2,749点 (+204点)	80.0% 【ストック型】
市町村図書館等協力貸出冊数（再掲）	19,211冊	20,300冊	13,693冊	67.5% 【フロー型】



構成事業の実績		
事業名	実績	
図書館資料整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の幅広いニーズに応じられるよう資料の整備を行った。 ・ 蔵書のバランスを見ながら、不足又は休刊が生じた分野の逐次刊行物を新規購読するなど計画的に収集を行った。また、宮城県関連の新聞だけでなく、全国紙も含めてマイクロフィルム資料の収集及び作成を行い、未収集部分の一部について遡及収集を行った。 ・ 郷土資料に関しては、資料の種類を問わず、幅広く収集を行うとともに、未所蔵の資料が見つかった場合は、積極的に購入や発行元へ寄贈の依頼を行った。 	
常設展・企画展開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展「本と人との文化史」の他、これまでに企画展「震災文庫展 X 1.17と3.11ーふたつの震災がもたらした変化とこれからを考えるー(3/7～7/12)」「市町村図書館展 宮城県内の図書館・図書室の輪(8/1～11/22)」「公文書館展 空襲・占領・復興ー太平洋戦争と戦災復興の記録(11/28～2/21)」を開催している。3月末時点で24,482人の来室があった。現在は「震災文庫展 XI あの日はいつもおりのはずだった(2/27～5/30)」を開催している。 ・ 前年度の貴重資料修復事業で修理した「仙台府学養賢堂図」を常設展の一環として展示(2/27～3/26)した。 	
協力業務運営事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内市町村図書館等への協力貸出を基準日現在で13,693冊、県外図書館等への相互貸借を586冊行い、当館資料の活用を図った。 	
資料展示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各コーナー、フロアにおいて、他機関と連携したものや時節を考慮したものなど、様々なテーマに基づいた特色ある展示を行った。 	

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展については、当初予定していた「オリンピック・パラリンピック展」が大会延期となったために実施できなかったが、他の展示期間を調整するなどして対応した。企画展の実施に当たっては、各種広報媒体を活用することにより県民に広く周知を図った。 資料整備にあたっては、県民の課題解決に必要とされる資料を整備できた。 再掲事業については、5ページ参照。 <p>以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。</p>	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 県図書館の特色を生かしつつ、県民に対してどう魅力ある展示としていくか、が課題となっている。 「叡智の杜Web」について、資料の公開数は順調に伸びているが県民への広報活動がさらに必要と思われる。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 企画展担当を、次年度以降は、各班毎の年間ローテーションを組み特色ある企画展の開催を目指す。 「叡智の杜Web」の利用については、講習会の実施などあらゆる機会を通じて広報に努める。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

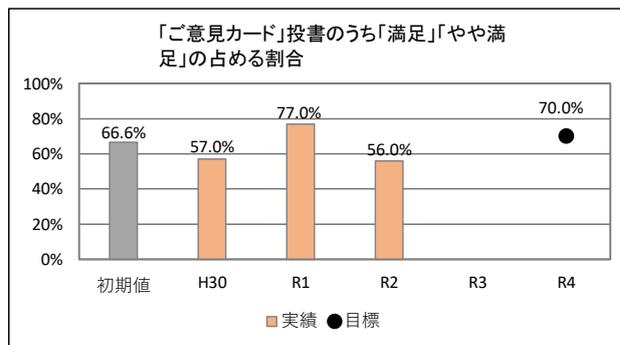
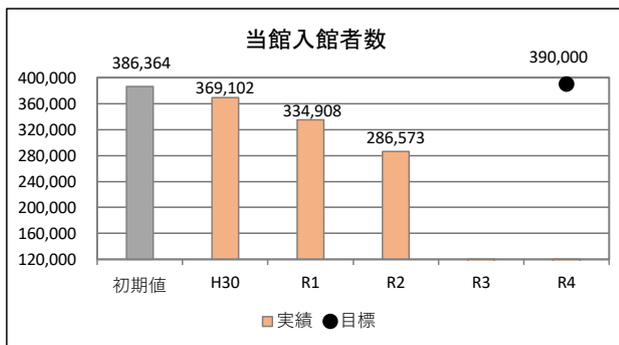
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	8 安全安心な施設の維持に努め、県民が利用しやすい環境整備を推進します。
--------	--------------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 当館の施設設備を適切に維持管理し、県民が快適な環境のもとで利用できるようにします。また、施設の老朽化や書庫の狭隘化対策について、10カ年の整備計画を立てるとともに、大規模な増改築を伴う改修等、中長期的な環境整備についても検討していきます。 職員のサービス向上と利用者のマナーアップ推進を図り、キャンペーン活動を実施し、利用しやすい環境づくりを行います。 「ご意見カード」や利用者から寄せられた意見をもとに、適宜、改善や考慮すべき事項の見直しを行います。
------	--

目標指標					
	初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和2年度）	達成率	
当館入館者数	386,364人	390,000人	286,573人	73.5%	【フロー型】
「ご意見カード」投書のうち「満足」「だいたい満足」の占める割合	66.6%	70.0%	56.0%	80.0%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館管理運営事業 (施設管理に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に伴う対策について、エスカレーターへの老朽化した手すり・駆動ベルト等の交換工事、イナージェン消火設備の制御盤等の交換工事を実施するとともに、南側遊歩道「書見の道」の東屋修繕や腐食した枕木の交換を実施した。また、次年度予定している3階テラスの防水及びサッシシーリング等の改修工事や中央監視システムの改修工事に係る設計業務委託を実施した。 東日本大震災によりひび割れを起こしたエントランスガラスについて、交換工事を実施した。 書庫の狭隘化対策については、書架の書棚の増設を行った。 中長期的施設整備計画については、外部委託業務による現地調査結果を踏まえた個別計画を策定した。
サービス向上マナーアップキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> 読書週間に合わせて実施。取り組みとして、図書館利用マナーに関する定時的な館内放送や啓発ポスターの掲示等を行うほか、カウンターでの破損資料の展示やツイッターでの広報を行った。また、サービス向上としては、ホームページの内容確認をこの期間に合わせて再確認の上、タイムリーで、適切な情報提供を心がけた。

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備に係る維持修繕工事計画に基づき、計画的に執行している。計画している設計委託業務及び工事について、完了した。 サービス向上マナーアップ推進キャンペーンについては、11月1日(日)から29日(日)迄の約1か月間実施した。ポスターを作成し、随時ツイッターでPRも行った。また、ホームページの再確認を同じ時期に行い、正しい情報の確認・発信に努め、利用者の利便性に寄与した。 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の老朽化対策を行うには、設計及び工事に多額の費用を要することから、財源の確保が必要である。 財政当局の理解が必要であることから、詳細かつ丁寧に説明を行っていくこと及び施設・設備の不具合等の状況を点検等により詳細に把握することが必要である。 マナーアップキャンペーンを実施するにあたり、「宮城県図書館のルール」をいかに常日頃、ご利用者のみなさまへお伝えできているのかを振り返る必要がある。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 利用者が安全・安心に施設を利用するために、施設の老朽化対策に引き続き取り組んでいく必要がある。施設整備に係る維持修繕工事計画を定期的に見直しながら財源を確保していく必要がある。 常日頃から「宮城県図書館のルール」を利用者のみなさまへ、お伝えする手段のひとつとしてホームページがあるので、上記の観点から、ホームページの見直しを定期的実施する。併せて、ご意見カードを活用し、時代に即した(求められている)図書館像についても、検討していきたい。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 施設的环境として、Wi-Fi等のネット環境を整えると費用対効果が非常に良くなる。そういったところを強く要望したい。

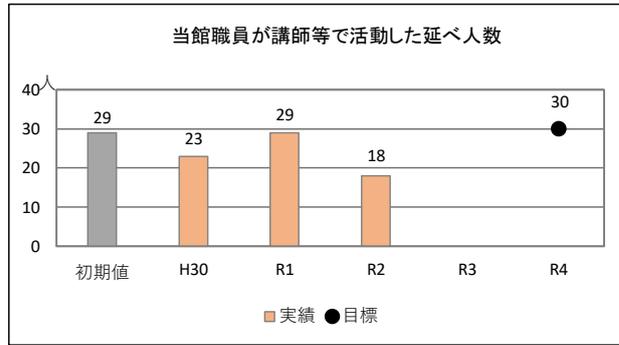
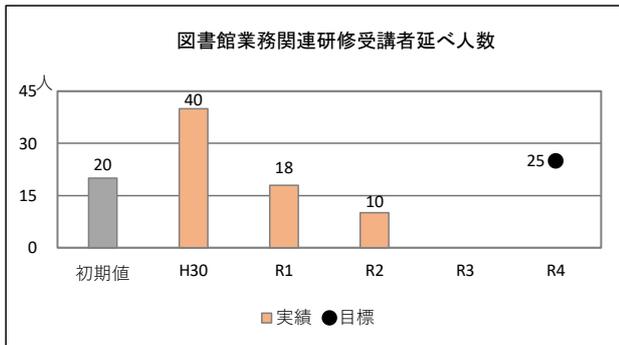
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	9 組織運営の強化に取り組むとともに、創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館サービスのさらなる充実を目的として、各種研修会等に積極的に参加し、職員の資質・能力向上に努めます。 ・ 専門職員の採用も含めた人材の確保と計画的なジョブ・ローテーションによりさまざまな業務を経験・習得させるとともに、他の組織・機関への派遣研修や人事交流等も検討し、より高度な人材の育成に努めていきます。
------	---

目標指標					
	初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和2年度）	達成率	
図書館業務関連研修受講者延べ人数	20人	25人	10人	40.0%	【フロー型】
当館職員が講師等で活動した延べ人数	29人	30人	18人	60.0%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館管理運営事業 (組織運営及び人材育成に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種研修会や会議等への参加するための旅費及び会計年度任用職員の予算確保に努めた。
公共図書館等職員研修（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を遠隔研修の形態で3回実施し、知識と技能の習得を図った。受講者数については、延べ482人の参加があった。 ・ 参加者アンケートでは基準日現在で平均3.6の高い評価を得た。
出前講座（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村図書館等業務の専門的知識習得と技術力向上を支援するため、基準日現在で4市町の研修会等へ当館職員を5回派遣した。

自己評価	概ね順調
------	------

理由

- ・ コロナ禍において、集合研修の数が大幅に減ったが機会を捉えて、少人数で開催される研修会やzoom等を活用した研修会への参加を促した。
- ・ 国立国会図書館と実務研修の相互交流事業に継続的に職員を派遣し、人材育成を図っている。
- ・ 令和2年度から、会計年度任用職員の制度となったが令和元年度との比較では、一般図書班に1名増員が認められ、多忙化している資料奉仕部の人員配置に寄与した。
- ・ 再掲事業については、7ページ参照。

・ 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。

課題

- ・ zoom等を活用した研修会が増えることと職員の研修に限らず、図書館関連機関に勤務する職員研修での利活用の観点からも、館内のインターネット環境の整備が急がれる。
- ・ 会計年度任用職員制度について、手引き等を活用し、制度の周知に努めていく。
- ・ 職員が研修を受講しやすい職場環境を整えることが重要である。

対応方針

- ・ 以前から館内におけるインフラ整備(館内LAN環境)が課題となっているため、上記と併せて、関係機関と相談し予算確保に向けて対応したい。
- ・ 職員の研修の機会確保と利用者サービスの向上に繋がる会計年度任用職員の配置及び運用に努める。

協議会委員意見

・ 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

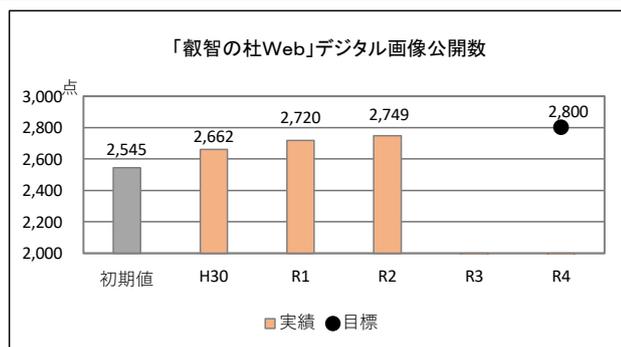
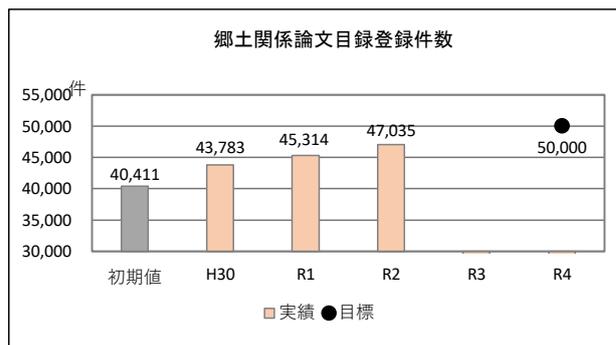
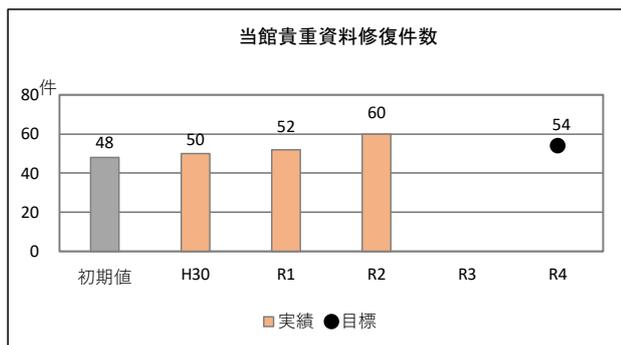
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	10 宮城の郷土資料を後世に伝えるため、収集・保存や修復を行うとともに、利活用の促進を図ります。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県に関する資料は、網羅的な収集に努めます。 必要な資料の修復や複製資料(デジタルデータ)の作製等を行い、適切な長期保存と活用に努めます。 「叡智の杜Web」で文献情報や貴重資料のデータ画像を公開し、利活用を促進します。
------	---

目標指標	初期値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和2年度)	達成率
	当館貴重資料修復件数	48件 (－)	54件 (+6件)	60件 (+12件)
郷土関係論文目録登録件数	40,411件 (－)	50,000件 (+9,589件)	47,035件 (+6,624件)	69.1% 【ストック型】
「叡智の杜Web」デジタル画像公開数 (初期値との差) (再掲)	2,545点 (－)	2,800点 (+255点)	2,749点 (+204点)	80.0% 【ストック型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館貴重資料保存修復事業	・計画どおり、「陸奥の国仙台領元禄国絵図関係資料」のうち、「御本之小絵」などを修理をした。修理後、併せてデジタル撮影を行い、デジタル画像は当館ホームページ「叡智の杜Web」で公開した。
図書館和古書複製作製事業	・計画どおり、「皇国地誌」の附図の陸前国柴田郡のデジタル撮影を行った。撮影後は、デジタル画像の作成を行い、当館ホームページ「叡智の杜Web」で公開した。

事業名	実績
図書館資料整備事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の幅広いニーズに応じられるよう資料の整備を行った。 ・ 蔵書のバランスを見ながら、不足又は休刊が生じた分野の逐次刊行物を新規購読するなど計画的に収集を行った。また、宮城県関連の新聞だけでなく、全国紙も含めてマイクロフィルム資料の収集及び作成を行い、未収集部分の一部について遡及収集を行った。 ・ 郷土資料に関しては、資料の種類を問わず、幅広く収集を行うとともに、未所蔵の資料が見つかった場合は、積極的に購入や発行元へ寄贈の依頼を行った。

自己評価	順調
------	----

<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構成事業について、計画通り事業が進行している。 ・ 再掲事業については、17ページ参照 ・ 以上のことから、目標指標の達成度状況は順調に積み上がっており、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「順調」と判断する。

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行予算規模における和古書複製の件数は計画通りである。しかし、未だ多数ある未撮影の資料には劣化が進んでいるものや希少な資料、利用頻度が高いにもかかわらず代替資料がないものや代替資料自体が劣化しているものも含まれている。資料的価値が損なわれないよう、複製の作成ペースの加速化が課題である。
----	---

対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル撮影による複製作成が加速するよう、関係機関に協力を得ながら予算確保にむけて働きかけをしていく。 ・ 貴重資料の適切な修復・保存方法について、国の補助事業を活用しながら事業を推進するとともに、安定的に予算が確保できるよう関係機関に協力を得ながら働きかけを継続していく。 ・ 企画展示等での利活用に努め、貴重資料の保存修復の重要性のPRを行う。
------	--

協議会委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価の理由が十分であり、「順調」とした自己評価は妥当であると判断される。
---------	--

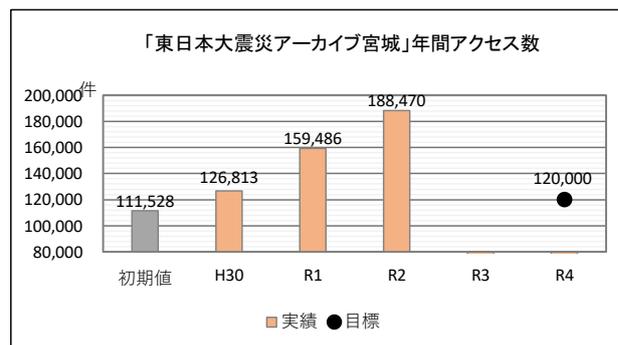
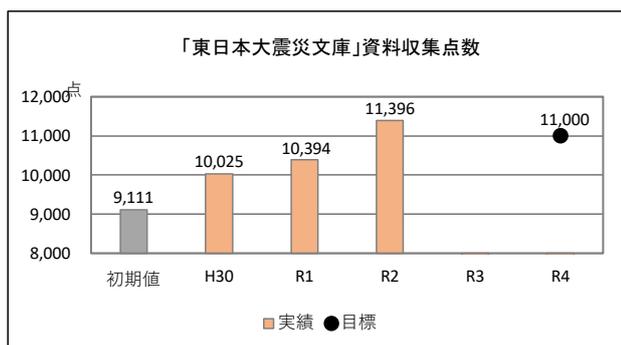
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和2年度
--------	-------

施策の方向性	1 1 東日本大震災の記録を収集し、永く後世に引き継ぐための取組を行います。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 震災に関する貴重な記録が失われる前に、県全域を対象として震災関係資料を収集することが求められていることから、「東日本大震災文庫」のより一層の充実を図り、購入可能な資料にとどまらず、非売品や希少性の高い資料を含めた幅広く網羅的な資料の収集に努めます。 震災関連資料を防災・減災に生かすために県内全市町村と連携・協力して構築した「東日本大震災アーカイブ宮城」の管理及び運用を行います。また、連携市町村と設置した「東日本大震災アーカイブ宮城管理運営協議会」と協力しながら、利活用の促進及び公開コンテンツの充実を図ります。 被災した市町村図書館等に対し、中長期的な将来を見据えた運営に配慮した支援を行います。また、震災に関する情報交換や経験共有のために研修会等を通じて、震災から得られた各図書館の経験知を他の図書館の業務に役立ててもらおうなど、県全域の市町村図書館等の復興に向けた取組に対して支援を行います。
------	--

目標指標					
	初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和2年度）	達成率	
「東日本大震災文庫」資料収集点数 （初期値との差）	9,111点 （－）	11,000点 （+1,889点）	11,396点 （+2,285点）	121.0%	【ストック型】
「東日本大震災アーカイブ宮城」年間アクセス数	111,528件	120,000件	188,470件	157.1%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
東日本大震災資料の収集	<ul style="list-style-type: none"> 購入資料の収集は東日本大震災から年数が経つにつれ減少傾向だが、寄贈資料の収集や整理が進んだため、収集数としては平成28年度から2,220点増の11,331点（うち図書5,962冊、雑誌1,579冊、視聴覚177点、チラシ3,586点、新聞27紙）と順調に増加した。
東日本大震災関連資料保存継承・公開事業	<ul style="list-style-type: none"> 5月に開催予定だった「東日本大震災アーカイブ宮城管理運営協議会」を10月に開催した。市町村向けのマニュアルの整備について検討・協議し、2月に完成した。 第22回図書館総合展（オンライン開催11/1～11/30）で東日本大震災文庫、アーカイブ宮城を紹介した。 仙台防災未来フォーラム（3/7 於：仙台国際センター）でブースを出展し、広報活動を行った。
被災した市町村図書館等の復興支援（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 第22回図書館総合展（オンライン開催、11/1～11/30）において、被災地図書館の復興状況を紹介した。
ハーバード大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> 5月20日にハーバード大学ライシャワー日本研究所とデジタルアーカイブに関する連携を開始した。

自己評価	順調
------	----

理由

- これまでの「震災文庫整備チーム」から、今年度は新たな体制となり、「震災文庫整備班」となった。
- 東日本大震災文庫の資料収集については、未整理資料の整理が進んだ。
- 「東日本大震災アーカイブ宮城」についても未公開資料の整理が進み、昨年同時期と比較するとアクセス数が増加傾向にある。
- 再掲事業については、6ページ参照
- 以上のことから、目標指標の達成状況及び実績を勘案し、「順調」とした。

課題

- 東日本大震災文庫の資料収集及び「東日本大震災アーカイブ宮城」のコンテンツ収集については、時間の経過とともに困難な状況となっている。
- 未公開となっている資料について整理を行い、権利許諾の有無を確認しながら公開していく必要がある。

対応方針

- 東日本大震災文庫及び「東日本大震災アーカイブ宮城」については、震災関連資料に関する情報入手に努める。また、関係機関と連携しながら収集するとともに、権利許諾についても早期に確認していく。

協議会委員意見

- 自己評価の理由が十分であり、「順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

4 令和2年度の点検及び評価の総括

第3期宮城県図書館振興基本計画に基づく、令和2年度の取組を点検し、当該計画で設定した11の施策の方向性ごとにその進捗状況の評価しました。数値的判断として設定した各目標指数に対する達成率と、施策毎の構成事業の取組実績を元に自己評価した結果、「順調」が2件、「概ね順調」が9件、「やや遅れている」及び「遅れている」と判断したものは0件でした。

この評価に係る外部評価として、宮城県図書館協議会に諮問することとしており、自己評価の内容やその判断に至った理由、課題などを報告し、審議の結果、自己評価については妥当との判断をいただきました。

振興計画策定から3年が経過し、今後の推進に当たっては、自己評価と宮城県図書館協議会の意見などを踏まえ、評価する中で整理された課題については、引き続き改善に努めるとともに、目標指標等については随時見直しを実施しながら最適なものになるよう努め、目的を達成した事業についても更に一歩進んだ取組となるよう見直しを行い、これからも市町村図書館等との連携・協力関係の深化を図り、当館を中核とした図書館ネットワーク体制の充実と、全県的な図書館サービスのさらなる質的向上に努めます。